

ブック

「学力」とは「いままで知らなかったことを『学ぶ』力であり、新学習指導要領が重視する『思考力・判断力・表現力』こそが、真の学力に近いものだろう」と著者は主張している。そして、思考力は「あれこれ考える力」、判断力は「こうだと決める力」、表現力は「さまざまなものをアウトプットする力」であると述べ、大学入学共通テスト導入に向けた試行調査の分析や中高生の「学力」

の現状から、「思考力・判断力・表現力」には読解力が欠かせないことを主張している。また、教育現場や保護者が「指導すること」は、子どもたち独自の考えや工夫をなくし、自ら行動する主体性を失っていくことであり、子どもの真の学力を伸ばすためには、「子どもを型にはめて、伸びる芽を摘まないこと」が重要だと述べてい



石川一郎 著
913円 SB新書
☎03-5549-1100

2020年からの新しい学力

る。そして、子どもが自分で考えて解決しようとしているときは、介入せず辛抱強く見守ることが必要で、「先回りして障害らしきものを排除しないこと」や「なんでできないの?」と咎めるのではなく、「なんでできなかったの?」と理由を聞き、「頑張ったけれど惜しかったね。どんな気持ちでした?」と子どもの気持ちのまま問うことが大切である等、子どもたちへの接し方が書かれている。最終章では、「いまの子どもたちー間違いない時代の大人数に、「想像力」

「デザイン力」「分軸」を「身につけてほしい能力」として挙げ、これらは「無限の可能性を秘めた子どもたちが、もともと必ず片鱗を持っており、引き出して開花させることができる。それをうまく引き出し、真の学力を身につけた子どもたちを未来に送り出すことが私たち大人の責務」と明言している。(愛知教育大学教授・高橋美由紀)